

社会科学学習指導案

展開学級 1 年 D 組
 展開場所 第一図書室
 授業者 広川 明秀

1 単元名 歴史分野 武士の台頭と鎌倉幕府

2 単元の目標

- 鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に取り組むことができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを理解させ、様々な歴史的事象から武家政権の特色を考えることができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料から当時の様子をとらえることができる。(資料活用の技能)
- 平安時代の社会から生まれた武士がしだいに力をつけ、鎌倉幕府が成立するに至る経緯のあらましを理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 評価規準 (評価方法)

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
・武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に学習している。 (観察・ワークシート)	・武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察している。 (発表・ワークシート)	・武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を活用している。 (ワークシート)	・武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり武家社会が発展していったことを理解している。 (ワークシート)

4 単元について

本単元は学習指導要領中項目 ア、「鎌倉幕府の成立、南北朝の動乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解する」を扱う。その中で、「武家政治の特色」については、「主従の結びつきや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の時代との違いに着目して考えるようにすること」とある。そこで、それまでの時代との違いに着目するため、荘園制を取り上げる。荘園は古代の律令国家から始まった班田収授法が行われ、墾田永年私財法により土地の所有が認められたことでおこった。その後土地を守るために武士が台頭し、中世の守護・地頭の設置により、元からいた荘園領主と争い、土地に対する武士の支配が強まっていく。このように古代から中世への移り変わりが見られるのが荘園であると考えた。

古代日本では天皇自らが政治を行っていた。しかし、藤原氏の台頭により政治の主権が移り、その後皇

室や撰閑家の内の跡継ぎ争いである保元の乱をきっかけに武家勢力が台頭してくる。源平の争乱後、平氏が滅亡し、源氏を棟梁とした鎌倉幕府が成立する。幕府成立後、全国に守護・地頭が置かれ、貴族と武士の二元的な土地支配が行われていく。このような中で、古代の律令国家の土地制度である班田収授法から始まった公地・公民という土地制度が墾田永年私財法の制定により、有力農民などが私有地である荘園を広げ、力をつけていく。そして自分の土地を守るために領主が武装化したことが、武士の台頭に大きく影響している。また武士は自分の土地を守るために、荘園を有力な貴族や寺社に寄進するなどといった方法をとっていた。そこで古代から中世への移り変わりを、荘園を媒介とした武士と領主の関係から学ぶことで、生徒が中世社会への転換を最もとらえられると考えた。

武士と領主の関係を学習する題材として、「一遍上人聖絵」、「横田郷の景観復元図」、「下地中分図」を題材として扱う。「一遍上人聖絵」は、小学校の既習内容である武士の生活を想起し、武士が日ごろから生活の中に戦いがあったことを思い起こさせるに適した資料である。そして「横田郷の景観復元図」では、武士の館の周りに田んぼや川、領主の家など荘園の構造と当時の朝廷(荘園領主)の勢力と幕府の二元支配をとらえるのに適している資料だと考える。「下地中分図」では、武士と領主が土地支配について争った後に、土地を折半していたことが読み取れる資料である。この資料を扱うことで武士と領主の関係は東国と西国で様々であったことを知る。これらの資料から読み取っていったことを、生徒が自ら考察することで、古代の中央集権国家から様々な勢力が複雑に絡んでいる中世への移り変わりをとらえられると考えた。

授業では、様々な資料から武士の生活がどのようなものであったか読み取っていく。初めに小学校の既習内容である、「武士に対するイメージ」を各自で思い出し、グループで意見交換をする。ここで、生徒がもっている武士像を確認し、生徒の関心を高めて本時の授業につなげていく。次に資料「武士の館」にあるように、武士の住む館に見張り台を作っていたことなどから、武士が日ごろから戦いに備えていたことを読み取らせる。ここで、中世の武士がどのような生活をしていたのかを資料から読み取り、中世の武士像の確認をする。そして資料「横田郷の景観復元図」を扱い、荘園の構造をつかませる。荘園には、武士と農民、領主(貴族)の住まいがあり、資料「武士の館」を見た後にこれを見ることで、武士が生活していた荘園とはどのような場所だったのか学ぶ。また、荘園領主の家を取り上げ、ここに領主が不在であったことを述べる。荘園では前時の授業で学習した鎌倉幕府が任命した地頭という武士が領主の代わりに税を納めている。このことから地頭と領主の関係を考えさせる。そうすることで地頭がどれ程の権力をもっていたか気付き、地頭と領主の関係がより明確になるはずである。最後に「下地中分図」を見せ、西国では承久の乱後に地頭が設置され、領主と争って土地を分けていたことを学ぶ。このことから前に述べた地頭と領主の関係は地域によって様々であると改めて知る。これらのことを資料から読み取る作業を行うことで、中世という時代は一概に地頭と領主が対等であったといえない時代であったことをつかませたい。そうすることでこの後、武士の力が次第に強くなり、近世になると強大な統一政権ができ、日本がまとまっていく流れがつかみやすくなると考え、後の学習に生きていくと考えた。

本校の研究主題である「豊かな表現力を育む」ために、毎授業で社会的事象について根拠をもって自分の考えを論述し、意見交換をさせている。これにより、社会的事象について自ら主体的に考える姿勢を身に付け、他者の意見を聞くことで自分の考えをより深めさせたい。また、他者にわかりやすく伝えるように説明していくことは豊かな表現力の育成にもつながると考える。

5 生徒の実態(指導の経緯) (第1学年D組 男子18名、女子18名、計36名)

本授業クラスは、学習に対して意欲的に取り組む生徒が多く、社会的事象に対しても自分の考えを持ち、記述することができる。しかし、自分の意見を発表することが苦手であり、個人差がみられる。

授業で行っている社会的事象に対して考え、自分の意見を論述し、他者と意見交換する活動に対しては、ほとんどの生徒が自分の考えを書き、意見交換をしているものの、全体の前で発表をする場面になると、限られた生徒しか発表をしない様子が多く見られる。しかし、語句の穴埋めなどの教科書に載っていて、間違えないようなものに関しては発表をする様子が見られる。そのため、今回は発問をより具体化させることで理解度を高めていくと同時に、自信を持たせ、自分の意見を積極的に論述し、意見交換をさせ、発

表をするという活動を通して、表現力の育成につなげていきたい。そして生徒が今回の授業の後も、自分が考えた社会的事象に対しても自ら積極的に考え、自分の意見を持ち、発表していく力を育てたいと考え、この単元を設定した。ここでは、武士の生活を資料から読み取り、考えていく中で自分の考えと他者との考えを比べながら、話し合いをしていくことで資料を読み取る力と表現力を育てていきたい。

6 指導計画（全4時間扱い）

時	学習内容と活動	指導や支援の手立て(◇は評価)
1	武士の成長 ○武士が登場し、次第に勢力を広げたことを、地方や都で起きた戦乱の様子などから理解する。	・武士が登場し、しだいに勢力を広げたことを地方や都で起きた戦乱の様子などから理解させる。 ◇ 武士のおこりと成長から武家政権の成立までの経過について理解できたか。(知識・理解)
2	武家政権の成立 ○将軍や執権と御家人の関係に着目して、武家政権の特色を考える。	・将軍や執権と御家人の関係に着目して、武家政権の特色を考えることができる。 ◇資料から朝廷と幕府の勢力関係、将軍と御家人の関係を考察できたか。(思考・判断・表現)
3 本 時	武士と民衆の生活 ○鎌倉時代の武士の生活の様子を、絵巻物や文書資料などを通して読み取り、自分の考えを記述し、他者と意見交換をする。	・絵巻物などの資料から武士の生活を読み取って、自分の考えを記述し、他者と意見交換をさせる。 ◇資料から武士の生活を読み取り、自分の考えを記述し、意見交換をすることができたか。(思考・判断・表現)
4	武士と民衆の生活 ○鎌倉時代の民衆の生活の様子を、絵巻物や文書資料などを通して読み取り、自分の考えを記述し、他者と意見交換をする。	・農業技術や手工業・商業の発達による生活の向上がもたらした社会の変化について考える。 ◇鎌倉時代の農業技術や手工業・商業の発達とそれに伴う生活の向上について考えて理解できたか。(知識・理解)
5	鎌倉時代の文化と宗教 ○鎌倉時代の建築物・彫刻・文学作品などに関心を持ち、調べていく。	・鎌倉時代の文化について関心を持ち、自ら調べていく姿勢を養う。 ◇鎌倉時代の文化について意欲的に調べ、関心を持つことができたか。(関心・意欲・態度)

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ① 「一遍上人絵伝」、「横田郷の景観復元図」から当時の武士の生活を読み取ることができる(資料活用)
- ② 当時の武士と荘園領主の関係について、資料から読み取ったことをもとに自分の言葉で表現できる。
(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開(3/5)

時配	学習内容と活動	指導や支援の手立て(◇は評価)
10分	<p>○武士はどんな暮らしをしていたか、各自で考え、ワークシートに記入する。その後、少人数グループで話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城に住んでいた。 ・偉い人の屋敷に集まって生活していた。 ・武士が住む集落があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の台頭までは貴族が政治を行っていたことを思い起こさせる。 ・小学校で学習したことを想起させる。
35分	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">武士はどんな場所でどのような生活をしていたのだろうか？</div>	
(10)	<p>○少人数グループをつくり、資料「武士の館」を見て、武士がどのような生活していたのか考える。</p> <p>ワークシートに記入し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな建物がある？ 入口の上に見張り台、家、馬小屋 ・武士はどんなことをしている？ 見張り、宴会、座っている ・どんな動物がいる？ 犬、鷹、馬、猿 ・どんな武器がある？ 刀、弓矢 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人と相談しながら、武士がどのような生活していたのか、読み取らせる。 <p>◇資料から武士の生活の様子を読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が日ごろから戦いに備えていたこと、訓練をしていたことなどを、資料を通して気付かせる。また「弓馬の道」や「武士の道」といった武士らしい心構えがあったことを説明する。 ・武士の家は、一族の長である惣領が中心となって団結していたことを説明する。 ・武士にとってのきまりである御成敗式目があったことを説明する。
(20)	<p>○資料「横田郷の景観復元図」を見て、武士が暮らしていた荘園とは、どのような構造だったのか読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りには何がある？ 田んぼ 林、森 川 家 <p>○資料「横田郷の景観復元図」から武士の家がどれか各自で考えて、ワークシートに記入す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の人が想像で作った資料であることを言及する。 ・武士は武芸だけではなく、農業も行っていたことを確認する。 ・資料「横田郷の景観復元図」の中から家を選ばせ、何故それを選んだか理由を考えさせ

	<p>る。その後、少人数グループで意見交換をし、班で出た意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の家はどれだろう？何故そう思うのか理由も言うこと。 <ul style="list-style-type: none"> 全部武士の家 左の家 右の家 立派な家2つ <p>※正解を聞き、小坪館が武士の家だと知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の家は誰のだろう？ <ul style="list-style-type: none"> 貴族 農民 お坊さん 空き家 <p>※正解を聞き、どの家が誰のものか知る。</p> <p>○領主の家は無人であるが、武士と領主はどのような関係だったのだろうか？</p> <p>領主が武士に支配を任せていた。 武士が領主を追い出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地に領主がいなくても、武士は毎回集めた税を貴族に送っていたのだろうか？ <ul style="list-style-type: none"> 真面目に送っていた 自分のものにしてしまって、送ってない こっそり税を減らして自分のものにしてた <p>(5) ○「下地中分図」を見て、「横田郷景観復元図」で読み取った領主と武士の関係との違いについて学ぶ。資料にある領主、地頭という文字を確認し、赤い線が何を意味しているのか考える。</p>	<p>る。困っている生徒には、建っている土地や周りに何があるかなど支援をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習で学んだ「地頭」という語句を使い、荘園で領主に税の取り立てを命じられた武士のことをいうと説明する。 ・武士の家の他に領主や農民の家があったことをつかませ、荘園の全体図をつかませる。 ・領主が武士(地頭)に税の徴収を任せ、領主は都に住んでいたことを説明する。 <p>◇武士(地頭)と領主の関係について、資料から読み取ったことをもとに自分の言葉で表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東国では武士が自ら開墾して、武士の力が強かったことを説明する。 ・領主、地頭という文字に注目させ、赤い線が境界線になっていることを説明する。 ・主に西国では地頭と領主が争って、このように折半することが多かったことを説明する。
5分	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の武士の生活をまとめる。その際に「武芸と農業」、「地頭と領主の関係」の2つのキーワードについてまとめる。まとめた後、発表する。 <p>武士は日ごろの生活の中で戦いのための訓練以外にも農業を行っていた。</p> <p>中世の武士(地頭)は領主に任されて荘園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の内容をしっかりと理解できているか机間指導をして、確認する。

	を治めていた人もいれば、争って土地をわけていた人もいる。 中世の領主と武士の関係は複雑 ごちゃごちゃしていると思った。	
--	---	--

(3) 本時の評価

- ① 「一遍上人絵伝」、「横田郷の景観復元図」から当時の武士の生活を読み取ることができたか。(資料活用)
- ② 当時の武士と荘園領主の関係について、自分の言葉で表現できたか。(思考・判断・表現)